伯剌西爾時報
發行所 伯剌西爾時報社
電話 七-四六七〇
社長 Director 石濱作 M Sameshima
購讀料 一ヶ年 六十圓 半ヶ年 三十圓
廣告御用は大會場御返信

珈琲 サントス四號 十キロ リオナル 十キロ 一二〇〇〇
爲替 倫敦 四、六六五 紐育 五、八一〇 紐育 米 一九、七七〇 紐育 英 八〇、〇五〇

合法活動の障害見越し
全極東在住米人總引揚げ

米國務省 極東各地領事館へ通達

（ワシントン八日同盟）ワシントンに達したUP電に依れば、米國務省は極東の各領事館に對し、當該地方在住の米國人に對し、即時本國向け引揚げ方を勸告したと謂れる

（東京九日同盟）上海發ユーピー電は、極東に於ける形勢にかんがみ國務省は全極東の米國民引揚げの準備を整へるに到つたとの極めてセンセショーナルな情報を流布してゐるが、我が外務當局では右に關しては何等の聲明を行つてゐない

（北京九日同盟）引揚げ勸告訓令は、當地在留米國人にも本日通達された模樣で、寄り〳〵引揚げ方を考究中の如くである、北京には大使館護衛隊を加へ一千名の在留者がある

【香港九日同盟】香港駐在アメリカ總領事サウザード氏は九日午前米人關係者に引揚げに關し左の如くステートメントを發表した

國務省より余に對し情勢の進展に伴ひ在留米人の商業的文化的或は人道的各方面に於る合法的活動が現在以上に大なる障碍を受くべきに至る可能性ある旨を指示し來り此の旨米國務長官より余に對し在留米人を本國に引揚げしむべき旨、指令して來た、右引揚げは現在緊急には不可缺な要務を有する者以外のすべての男子、婦女子を含むもので、引揚げには運輸關係が多少とも正常狀態にあると思はれる今後數週間中に香港を去るやう指示されてゐる、然し香港の現狀に於て差し迫つた緊急事態が存在してゐる知き情報は何等受けて無い、從つてワシントンよりの勸告は全く單なる警備措置と考へられる

急迫日米問題組上

ハル長官と記者團の問答

（寫眞 ハル國務長官）

【華府八日同盟】八日のハル國務長官と記者團との定例會見は國務省から全極東米國人引揚勸告命令が發せられた直後だけに、近來にない頗雜振りで、記者團側の質問もまたこれに集中されたが、ハル國務長官は記者團側の「引揚勸告は近く重大危機が到來するとの豫想を反映するものがあるか〳〵との質問に對し、曖昧に笑ひ飛ばすに止めた

米國人の安全と云ふ事が我々の主として考慮してゐる處で、政府としてはこれ迄も軍事行動の行はれてゐる地域に於て採つた同樣の豫防措置を講じたまでゝある

次で行はれた極東問題に關する質疑應答は大要次の通りである

米國民引揚問題については堀内大使に通告してあるから堀内大使は既にこの事を知つてたと思ふ、今日の同大使との會談では一般的問題につき話したもので米國人の引揚勸告は緊急要務のない米國人及婦女子に行はれたもので、米國民撤退については今回の議に上つてない、ハル長官とウェルズ次官の間には極東政策につき意見の相違があるとの說が流布されてゐるが、そんなことは絶對にない

在米邦人はどうする
我情報部長——記者團の質問に明答避く

【東京九日同盟】米國政府が八日極東各地在留の米國人に對して、本國へ引揚げ方を勸告したとの報道は、九日外務省情報部長と定例外人記者會見に於ても話題の中心となつたが、一米人の記者が日本も在米日本人に對し同樣の措置を取るかとの質問を發したに對し、情報部長は

在米邦人は現在安じて各自その業務に從事してゐる、從つて帝國政府としては現在の處左樣な措置は考慮して無い

と答へた、又外電に依つて傳へらるゝ、天津、上海より米駐屯軍引上げ說に關しては右の如きは例へ事實としても恐らく婦女子引上げ完了の後だらうと答へ、終始一切の言明を避けた

中支米系商社へ
米本國から既に指令飛ぶ

東亞特電

【上海九日同盟】東亞特電—米國人婦女子並に其の他必要ならざる人間の円地域よりの引揚げ問題は、既に上海に於ては過般、米本國より米系商社に對し

一、在中支の商社は一應マニラにも基地を設ぐべき事

一、此の際商權の確保を急ぐ事等の指令があり、最近には石油會社に對し、休暇濟了の社員は單身赴任を指令する等、漸次空氣の緊張振りを見せて居たもので、米國側は殆ども當分滯貨の狀態である

演繹ルート再開が
極東の危機を勃發
駐米英大使、記者團に語る

【華府八日同盟】ロシアン駐米英國大使は昨七日飛行機でシカゴに來たルーズベルト大統領と會見した、大使は右會見後記者團に對し英國政府は極東の危機勃發の可能性を考慮して、余に對し歸國中止を訓令して來た

極東の危機は非常に近いかとの質問であるが、それはビルマ公路再開で勃發するかも知れない、今日のルーズベルト大統領との會見の詳しい事は云ひ得ない、又英國政府が危機發生の恐れある場合には自國人を引揚げるかどうかも判らない、と話つたが、此の談話から見て兩者の會見が極東問題を協議されたことは明白とされてる

英米と通商斷絶を覺悟
星野總裁 地方長官へ說明

【東京十日同盟】星野企劃院總裁は、八日の地方長官會議で三國同盟締結後に於る、我が國の產業、貿易の見透しについて說明を行ひ

外交轉換により經濟上最も影響を受けるのは、英米との通商關係で、最惡の場合には通商杜絕も覺悟せねばならぬ、而し我方は既に重要物資の手當ても充分行つてをり、差當り不自由するやうな事はないが、今後は中南米及び南方地方との貿易を固くすると共に、東亞共榮圈內の自給自足を速かに完成せねばならぬ、之に伴ひ政府は國內產業の全面的再編成を行ふべく、國家總動員を更に强力に發動する方針である

と述べた

寫眞は 星野總裁

英は必ず勝つて見せる
チャーチル 英首相議會で演說

A inglaterra mais perto do que nunca da vitória.

【倫敦八日同盟】ユーピー電によれば、チャーチル英首相は英日議會に於いて英國は必ず近い內に勝利を得るが、獨逸の英本土上陸戰の危險には充分警戒を要すと次の如き軍事報告演說を行つた

一、ヒットラーは英本土上陸の爲め五十万の兵と艦船其他軍需品を準備して居る

二、目、獨、伊三國同盟の主なる目的は米國に對抗する爲めに締結されたものであるが、またソ聯に對しても備へたものである

三、英國政府は本月十八日よりビルマルートを再開するであらう、それは此のビルマルート閉鎖により日支南國間に何等和平を招來するものではないからである、

四、今回の英本土空中戰にはさる十曜日迄に英國は僅に八千五百人の死者と一万三千人の負傷者を出したのみである

五、佛國艦隊の六隻をジブラルタルに移動したのはこれが夕カール攻撃に參加したからである、英國は尙引續き佛國のド・ゴール將軍を援助するものである

米、祕海軍協定成る

【リマ八日同盟】歐洲戰局の進展に伴ひ米國は米洲共同防衛の名目で、中南米各國との軍事協定締結を企圖し、陸海空軍使節の派遣を開始した模樣である、即ち八日UPワシントン電に依れば

先づその第一歩として米國はペルーとの間に海軍協定を結び、必要に應じ陸空軍使節をも派遣し、軍備の擴充をはかる事に約定が成立したもの〳〵如く、すでにチリーとの間にパルパライソ港使用に關する協定を結んだ米國が、今回新たにペルーと海軍協定を締結した事は、米國の南太平洋防備上、極めて注目されてる

獨軍ルーマニア進駐
バルカンに新情勢惹起

【倫敦九日同盟】獨軍のルーマニア進駐は、再びバルカンに新たな情勢を惹起するものとして英國政府の關心を集めてゐるが、ロンドン外交消息筋は是を以て樞軸の東南方勢力は決定的となりトルコの脅威は增大したと左の如き觀測を行つてゐる、獨軍機械化部隊のルーマニア進駐はブレンネル會談に依つて決定された樞軸の一般的方策の第一着手である、ドイツ今日の戰方針は對英上陸策戰の開始前に東南歐諸國の制壓にあり、先づルーマニアに獨立政權を樹立し次いでブレシュチゴ油田、及び同地からドナウ河に至る石油輸送權を完全に掌中に收めたもので、米國民撤退については今回の議に上つてない、ハル長官とウェルズ次官の間には極東政策につき意見の相違があるとの說が流布されてゐるが、そんなことは絶對にない

淋れ逝く香港
極東貿易中心——ラングーンマニラ移動が豫想さる

ラングーン又はマニラに移るべく豫想され、大局から觀て

寫眞、最近の香港風景

【香港九日同盟】ビルマルート再開聲明と極東に於るアメリカ居留民の引揚は、日英、日米關係の惡化を示すものとして當地經濟界でも、多大の衝撃を受けてゐるが、市場は漸く材料を總て織り込み濟みで急激な變化は豫想されてない然して佛印援蔣ルート再開を見越し、貿易關係業者中既に其の本店をラングーンに移轉せるもの相當あり、極東貿易の中心は一部香港を去つて、ラングーンに移るものと謂はれる

◆英國が大資本を投じて多年掘鑿經營して來たルーマニヤ油田は遂に獨逸の手に歸したこの一事によつて見るもバルカン政策が獨逸に軍配が上つたことを疑ふものはない。エジプトでは伊太利軍が猛進に驀進阻止すべき方法もない、ソ聯引込策もどうやら獨伊の方へ傾はれそうである。スペインの嚴正中立支持工作も動搖しそうだ。

若獨逸ロイドジョージ翁が祖國外交の大失敗を嘆いた某紙上へ寄稿の一節である。

◆英國は過去一年余に亘る戰爭で今や全面的物資欠乏に惱み、物價騰貴のため、生活不安に陷つた勞働階級の不平が勃發、各地に示威運動が行はれてるが、一昨八日の朝きサザンプトン市では車工業從事者の共產黨所屬職一連が多數

◆駐米ソ聯大使オーマンスキーはウェルズ國務次官訪問極東問題に付き會談を行つた

◆ルーマニヤ油田確保で八百万噸の石油が獨逸の手へ入ることゝなつた

◆ルーズベルト大統領は米海軍育成部に二時間に亘つて會談、米海軍は太平、大西兩洋二面作戰に對應する實力不足の結論に到達、米國參戰は見込薄となつた

◆米洲大陸防衛の第一歩として米秘海軍協定成る

◆安んじて日々の業務に就てゐる在米日本人は揚げ問題等考へてゐないと我情報部長談

皇軍ハノイに進駐

【ハノイ八日同盟】我が佛印上陸部隊は、日、佛印條約に基き、七日正午【佛印時間】ハノイに進駐した

帝國、一路既定方針へ邁進
英の通告に對し——我方回答行はず

【東京十日同盟】英國政府はある七月の有田、クレーギー協定に依り三ヶ月の期間を以て、軍需品輸送を禁絕したビルマ援蔣ルートを來る十八日より再開するに決し、八日クレーギー駐日大使を通じて、この旨我が外務省に通告し來つた、我方ではこれに對し特に正式回答を行ふ事なく、一路既定方針に向ひ邁進する決意を固めてゐる

英、蔣政權を懸命援助

【東京十日同盟】日獨伊三國同盟成立以來、米國の對日敵性は愈々露骨化するに到つたが、英國は曾且つ帝國政府に對して來る十月十七日期限滿了すべきナン線公路禁絕を解除する旨、通告するに到つた英國は總ゆる努力を盡くして蔣政權を支援し來つたが、特に香港及びビルマ・ルートより物資を供給、抗日政權の戰鬪力增加に腐心し來つた事は、實に傍若無人の振舞と云ふべきである

邦人逮捕事件
シンガポール 篠崎山川兩氏豫審行はる 公判は廿三日より

【シンガポール八日同盟】去る廿一日シンガポール政廳當局に檢擧された帝國總領事館囑託篠崎氏並に山川アッ子に關する豫審は、七日朝シンガポール第三法廷で行はれた、公判は來る廿三日より四日間に亘つて開かれる模樣である、御山川さんは、百ドルの保釋金を納入、釋放された

あばれ大名
（鳴門首頭）（二百二十三）
（どくろ船）（二ノ二）
久我莊多郎 會時翻案

「……」

聽いことをいつた、と平馬は、今更餃惱を噛んで黙つてしまつた

そして、氣まづくなつた二人、新町川のそばにある茶屋の軒下へ、踊りの流れを避けて立つた

この時！

運命の神の惡戲か、そこを通りかゝつたのは、誰あらう萬太郎であつた

まだ、苦り切つた大場典鬼の顏から、七百のそうな語句が吹かれて出る

「さうだらうが、横溝氏。貴公たちの方は時と場合で、逃げ拔ける道がある。海だ。困つた事になれば、海へ遁れゝばいゝのだが——拙者たちの方は、さうはゆかん。讃岐藩の存亡、この大事が幽靈みたいに附きまとつてゐるんだ」

「聽かつた、大場さん、おれが言葉を誤つたんだ」

と平馬、いつもの强い調子も出せず、しんぞこ崩つてゐる

「な。うつかりと口に出してしまつたのだから、さうこちれずに、この邊で手打といふことにしていたゞきたい」

「——心にもないことは、いへはすまい。腹で平氣でゐるからのんきにゐられるのだ」

「——……」

さすがに、平馬の眉間に、ムッとした色が燃える。が、德兵衛はじめおのれ達は、讃岐藩の尼介者だと考へると、どういはれても言ひ返すことは出來ない。その反省で、平馬イラ〳〵しながら、氣を變へるやうに目を轉じた

三味、笛、太鼓の囃子、廊ノ子や赤い衍や花笠、手拭、道化面など、踊り手の列がこの橋を練りわたつてゐる

と。見ると——

その亂舞の渦にまきこまれてゐたらしい一人の少年が、ふら〳〵とこちらへ轟けて來た

轟けながら

「踊る阿呆に、見る阿呆……」

と、みなの歌に合はして興がつてゐる

それが、踊りの波に押されて、あやふく、平馬に突當らうとした

すると、平馬、ムシヤクシヤしてゐたところだから、腹立たしさのハケロをそこに求めて

「えい、危ねえ！」

と、少年を睨みつけた

が——が

その、とたんである

平馬の血相に縮みあがつた少年も、怒鳴りつけた平馬もあつとビックリした

「やッ、うぬは——」

日蘭の交渉看々と進捗

我が要求に對して 蘭印側、覺書を寄す

【バタビア九日同盟】ファンホーグストワーテン通商局長は七日夜我が齋藤總領事に對し日本の具體的要求に對して、ラン印側の基本的立場を說明せる覺書を手交した、仍つて我が代表は八日午前、午後の二回に亘り總領事館に會合し、右覺書を中心に愼重協議を遂げた

【バタビヤ七日同盟】リットマン、ラン印政府傳聞局長は七日日本記者團と會見日ラン共存共榮に關する、日本側の申入れは、ラン印の政策と一致するに過ぎず、何等憂慮するやうな問題はない と語つた

安井内相より訓辭

質疑應答交さる

地方長官會議

（東京九日同盟）地方長官會議第二日は、八日午前八時より内務省第一會議室に開會、安井内務省警保局長より訓辭あつて、引續いて河田藏相より訓辭あつて、正午一旦休憩、午後一時より會議を再開、工省關係省側と長官側との間に質疑應答あり、同十一時内務省庶務課長出席、訓辭並に昭和十五年度物動計畫及び國土計劃に就き說明、引續いて午後三時より農林省關係會議を行つた

大政翼賛運動の側面援助

東亞建設國民聯盟起つ

【東京九日同盟】興亞東亞報國團、同盟團では今回大政翼賛運動の側面的な援護を目的として地方支部を結集、東亞建設同志會を設立する事となり九日午後三時より青山會館に會長、末次大將以下代表者參集、同志會設立準備會を開き綱領を決定、思想的答案運動を起す事となつた

佛印へ！使命重し

九日、松宮大使發つ

【東京九日同盟】佛印特派使節松宮大使一行は、九日午前九時東京驛より十一日午後二時神戸出帆のアメリカ丸にて、一路佛印に赴く筈

皇軍動く

三方より電擊攻撃

臨安縣城（杭州西方五十キロ）陥落す

○○へ向け追擊又追擊

（臨安九日同盟）浙江省西方突如三方面より行動を開始し正面の敵崑砦同山嶺に據る敵陣を攻撃、陸戰大編隊群の協力を得て一氣にこれを突破、敗走する敵を追つて猛進擊を開始、佐々部第二十一師及び浙江保安隊を粉碎すべく、松井、野崎、古川、山崎、佐々木、道家、青木、館野、伊藤、鍋島、佐々

野村中將

熱海へ一泊

【東京九日同盟】海軍最高指揮官野村直邦中將は九日午後一時四十八分熱海へ歸着、出迎への軍令部大和、海軍省一宮兩大佐と共に直に熱海ホテルに入つて一泊の上、十日朝上京、軍狀奏上の筈である

外務辭令

【東京九日同盟】外務辭令

總領事　内山清

任大使館一等書記官兼總領事　英國在勤を命ず　大使館一等書記官として倫敦在勤を命ず（總領事として）　山田久成

外務事務官　伊關勇次郎

任外務書記官東亞局第二課長を命ず　淀川正樹

兼任公使館二等書記官ベルリン在勤を命ず

任領事マニラ在勤を命ず　木原治太郎

大使館三等書記官

兼任領事天津在勤を命ず　大使館理事官

海鷲昆明猛擊

十四機を擊墜

【○○基地八日同盟】用支艦隊報道部七日午後七時發表、海軍航空部隊の○○機は、七日我艦隊の山嶽地帶の密雲を突破し、昆明を空襲し、折から同地上空に待機中の敵戰鬪機十數機と交戰しつゝ、兵器廠その他敵軍事施設に猛爆を敢行、これを炎上せしめ、甚大なる損害を與へ、なほ無事基地に歸還せり、本戰鬪に於て敵機十四機撃墜、地上にある四機を大破せしめたり、我方損害なし

酒類生産

統制委員會

【東京十日同盟】酒造組合中央會では、八日酒類生産統制委員會を開催、昭和十五年（本年）十月より明年八月迄産統制に關し討議した

英米へ泣訴

重慶の媚態續く

【香港八日同盟】重慶からのハーパス電によれば、重慶側國民協會はロンドン、ワシントンに於る重要團體宛て書狀を送り、歐洲戰爭は目下持久狀態に入りつゝあるが、對蘇援助の積極化のため歐洲戰爭を早期に終結せしめ、英米共同作戰を要請する申送つた

吳鐵城

スラバヤへ

【マニラ八日同盟】去る九月廿五日以來當地に滯在中であつた重慶政府吳鐵城は八日午前オランダ汽船で蘭印のスラバヤに向つた

建川新駐ソ大使

十一日赴任の途へ

【東京八日同盟】各紙所報、建川新駐ソ大使は來る十一日午後三時東京驛發任の途に就くことになつた、同大使は途中十四日新京に立寄り、梅津軍司令官と懇談の上、十五日新京發ハルビンに向ひ、同地で離朝の途にある東郷大使と落合つて事務引繼ぎを行ひ十六日モスクワに向ふ豫定

官吏制度改革案

樞府第一回會議開く

【東京九日同盟】官界新體制の一環たる官吏制度改革に關する樞府第一回會議は、八日午後二時より樞府事務所に於て開催、原、鈴木正副議長他各顧問官、政府側より近衛首相並に村瀬法制局長官出席、文官任用制度、文官文官制度、高等試驗制度、官吏の待遇改善等の改革案に就て審議を行つた

超短波

松岡外相は九日午後三時五十五分、宮中に參内、沢皇陛下に拜謁仰せ付けられ所管事項に付き奏上、親ら御下問に奉答して御前を退下した

松岡外相參内

臨時閣議

政府は九日午後二時三十分首相官邸に於て臨時閣議開催、橋田文相より八日學徒興亡の大御心から東京帝國大學に行幸遊ばされた御模樣を報告、村田遞相より電氣通信會社設立の件を報告、秋田拓相より拓務次官更迭に伴なふ後任に北島謙次郎氏を起用する旨諮り、承認を求めた

翼賛會發會式

大政翼賛會發會式は來る十二日（土曜）擧行される事になつた、當日の式順は宮城遙拜、默禱、國歌合唱後、有馬氏より經過報告、近衛首相より挨拶あつて式を終る豫定になつてゐる

遞信局長會議

九日遞信局長會議開催、發送電、配電、電力國策について具體的協議をした

簡易保險局委員會

簡易保險局では九日委員會を開催

麥實收高

本年度麥實收高について農林省では九日次の如く發表した

東北六縣

大麥百二十七万三千七百三十四石（前年より三分六厘減）

裸麥九十四万二千六百八十四石（一分二厘減）小麦八十九万九千百九十四石（一分七厘增し）

御日本全國の實收高は

大麥七百四十九万六千三百二十三石

裸麥六百十四万九千六百〇六石

小麥九十八万三千六百八十石

讀め時報!!

胃腸に エビオス

澳信局長會議

つた、當日の式順は宮城遙拜、默禱、國歌合唱後、有馬氏より經過報告、近衛首相より挨拶あつて式を終る豫定になつてゐる

酒類生産

統制委員會

（東京十日同盟）酒造組合中央會では、八日酒類生産統制委員會を開催、昭和十五年（本年）十月より明年八月迄産統制に關し討議した

海鷲昆明猛擊

十四機を擊墜

【○○基地八日同盟】用支艦隊報道部七日午後七時發表、海軍航空部隊の○○機は、七日我艦隊の山嶽地帶の密雲を突破し、昆明を空襲

英米へ泣訴

重慶の媚態續く

【香港八日同盟】重慶からのハーパス電によれば、重慶側國民協會はロンドン、ワシントンに於る重要團體宛て書狀を送り、歐洲戰爭は目下持久狀態に入りつゝあるが、對蘇援助の積極化のため歐洲戰爭を早期に終結せしめ、英米共同作戰を要請する申送つた

吳鐵城

スラバヤへ

【マニラ八日同盟】去る九月廿五日以來當地に滯在中であつた重慶政府吳鐵城は八日午前オランダ汽船で蘭印のスラバヤに向つた

建川新駐ソ大使

十一日赴任の途へ

【東京八日同盟】各紙所報、建川新駐ソ大使は來る十一日午後三時東京驛發任の途に就くことになつた、同大使は途中十四日新京に立寄り、梅津軍司令官と懇談の上、十五日新京發ハルビンに向ひ、同地で離朝の途にある東郷大使と落合つて事務引繼ぎを行ひ十六日モスクワに向ふ豫定

經縣占領

【上海八日同盟】江南の共産新四軍襲撃中の我が軍は、八日午後三時敵軍要塞占領縣を完全占領した

新着圖書目錄

一九四〇年十月

書籍名	著者	定價
我が闘爭	ヒットラー	七、八〇〇
獨逸外務省	獨逸外務省	一六、二〇〇
白書	白書	一三、五〇〇
驚異のドイツ	田畑喜彦	五、四〇〇
日本の方針	大橋喜次郎	一〇、八〇〇
第二次大戰の性格	E・ヴァルガ	一三、五〇〇
抗戰の首都重慶	村田孜郎	一〇、〇〇〇
歐洲大動亂と東亞聯盟	田中直吉	一六、二〇〇
世界と日本	伊藤正德	一〇、〇〇〇
散撃の手記	富岡直方	七、二〇〇
ソ芬戰より白鬼進擊	外務省情報部	一〇、〇〇〇
續分隊長の手記	棟田博	一一、七〇〇
日本に續つ	野依秀市	一一、七〇〇
火線の軍醫	河原慰一郎	一一、七〇〇
思想建設	宇田尚	一二、五〇〇
ドイツの戰時財政と經濟	安井源雄	一二、六〇〇
民族外交の鐵	竹内夏積	一三、五〇〇
米國	日々新聞社	九、〇〇〇
官僚わるしが國さ	伊藤金次郎	一八、五〇〇
りんふん戰話集	上田廣	一二、六〇〇
埋れた戰史	林專之助	一二、六〇〇
外地の魅惑	大宅壯	一六、二〇〇
明日の世界	中野友禮	一六、二〇〇
落花の如く	加藤武雄	一一、七〇〇
成吉思汗	尾崎士郎	一一、七〇〇
琴抄	谷崎潤一郎	一五、三〇〇
春の情	佐藤春夫	九、〇〇〇
平家物語	大久保康雄譯	二七、〇〇〇
北京日記	林語堂	一六、二〇〇
沙漠	大内隆雄	一六、二〇〇
祖國	柴田賢次郎	一三、五〇〇
紅閨に叫ぶ	山口雪子	一三、五〇〇
田園	相馬少女	一三、五〇〇
紅蓮	森田たま	一三、五〇〇
わが子よ、わが子よ上、下	狩谷棟譯	一三、五〇〇
螢	菖蒲同	一三、五〇〇
丸山義二	花の姑娘	一四、四〇〇
丹羽文雄	山本和夫	一四、四〇〇
短篇小説特選集	青衣の心	一三、五〇〇
歸郷	山口誓子	一三、五〇〇
濱田庄司	森田たま	一三、五〇〇
煙瓦	菖蒲同	一三、五〇〇
女工	山本和夫	一四、四〇〇
豚火	森田たま	一四、四〇〇
河野華平	青衣の心	一三、五〇〇
日本の城	山口誓子	一三、五〇〇
青鳥	相馬少女	一三、五〇〇
春林	森田たま	一三、五〇〇
短篇小説特選集	菖蒲同	一三、五〇〇
羽正雄	山口誓子	一三、五〇〇
夢多き日に	相馬少女	一三、五〇〇
夢の貴の	森田たま	一三、五〇〇
富井克之	菖蒲同	一三、五〇〇
ならぬ憂	山口誓子	一三、五〇〇
紅人	相馬少女	一三、五〇〇
北村壽夫	森田たま	一三、五〇〇
熱帶	菖蒲同	一三、五〇〇
中村熊三譯	山口誓子	一三、五〇〇
大久保康雄譯	相馬少女	一三、五〇〇
螢	森田たま	一三、五〇〇
丹羽文雄	菖蒲同	一三、五〇〇
丸山義二	山口誓子	一三、五〇〇
柴田賢次郎	相馬少女	一三、五〇〇
國	森田たま	一三、五〇〇
祖國に叫ぶ	菖蒲同	一三、五〇〇
圍	山口誓子	一三、五〇〇
相馬少女	森田たま	一三、五〇〇
狩谷棟譯	菖蒲同	一三、五〇〇
菖蒲同	山口誓子	一三、五〇〇
山本和夫	相馬少女	一三、五〇〇
青衣の心	森田たま	一三、五〇〇
の誇	菖蒲同	一三、五〇〇
パール。バック	山口誓子	一三、五〇〇
の生活	相馬少女	一三、五〇〇
の幸・地の幸	森田たま	一三、五〇〇
円地文子	菖蒲同	一三、五〇〇
愛の倫理	山口誓子	一三、五〇〇
寺崎浩	相馬少女	一三、五〇〇
流轉	森田たま	一三、五〇〇
岡本かの子	菖蒲同	一三、五〇〇
丸の内話	山口誓子	一三、五〇〇
生の記錄	相馬少女	一三、五〇〇
春の花	森田たま	一三、五〇〇
青の花	菖蒲同	一三、五〇〇
若林つや	山口誓子	一三、五〇〇
スタインベック	相馬少女	一三、五〇〇
クリストフワーセーリ	森田たま	一三、五〇〇
春の記錄	菖蒲同	一三、五〇〇
若林つや	山口誓子	一三、五〇〇
日鼠と男たち	相馬少女	一三、五〇〇
倉田百三	森田たま	一三、五〇〇
娘	菖蒲同	一三、五〇〇
蟲	山口誓子	一三、五〇〇
稲垣足穂	相馬少女	一三、五〇〇
法	森田たま	一三、五〇〇
常良	菖蒲同	一三、五〇〇
山口誓子	山口誓子	一三、五〇〇
の風	相馬少女	一三、五〇〇
堀辰雄	森田たま	一三、五〇〇
々	菖蒲同	一三、五〇〇
魂	山口誓子	一三、五〇〇
鼓	相馬少女	一三、五〇〇
中山義秀	森田たま	一三、五〇〇
田中純譯	菖蒲同	一三、五〇〇
アフトレンドレア	山口誓子	一三、五〇〇
新世界文學史	相馬少女	一三、五〇〇
（タ	森田たま	一三、五〇〇
柿の	菖蒲同	一三、五〇〇
林安繁	山口誓子	一三、五〇〇
春の園	相馬少女	一三、五〇〇
横光利一	森田たま	一三、五〇〇
旗	菖蒲同	一三、五〇〇
愁	山口誓子	一三、五〇〇
戰	相馬少女	一三、五〇〇
鄙より歸りて	森田たま	一三、五〇〇
日記	菖蒲同	一三、五〇〇
佐々木邦	山口誓子	一三、五〇〇
雉	相馬少女	一三、五〇〇
喧嘩三代	森田たま	一三、五〇〇
世	菖蒲同	一三、五〇〇
第一歩	山口誓子	一三、五〇〇
堀辰雄	相馬少女	一三、五〇〇
進	森田たま	一三、五〇〇
曲	菖蒲同	一三、五〇〇
兄	山口誓子	一三、五〇〇
弟	相馬少女	一三、五〇〇
行	森田たま	一三、五〇〇
情	菖蒲同	一三、五〇〇
降る	山口誓子	一三、五〇〇
ぞ	相馬少女	一三、五〇〇
の	森田たま	一三、五〇〇
愛	菖蒲同	一三、五〇〇
情	山口誓子	一三、五〇〇
餓	相馬少女	一三、五〇〇
女	森田たま	一三、五〇〇
大	菖蒲同	一三、五〇〇
飢	山口誓子	一三、五〇〇
三人	相馬少女	一三、五〇〇
酒井稻子	森田たま	一三、五〇〇

書籍名	著者	定價
戰ふ	愛	七、八〇〇
（レンケラー自叙傳）	池田宣政	一六、二〇〇
父と子	野口英世	一三、五〇〇
像人	野口英世	五、四〇〇
死よりも強し	野口英世の母	一〇、八〇〇
北極（曾及版）	宮瀨睦夫	一三、五〇〇
光	鶴見祐輔	一三、五〇〇
雪	同	一三、五〇〇
菩提樹	同	一三、五〇〇
別れたる妻に送る手帳	川端康成	一三、五〇〇
敏	武田麟太郎	一三、五〇〇
希望	椋鳩十	一三、五〇〇
死	宇野浩二	一三、五〇〇
器用貧乏	川口松太郎	一八、五〇〇
愛染かつら	津川主一	一六、二〇〇
パッハの生涯	吉田絃二郎	一三、五〇〇
わが旗の記	吉田絃二郎	一三、五〇〇
ブルタック英雄傳	澤田謙	一〇、〇〇〇
文章の作り方	久米正雄	一三、五〇〇
日輪を孕む腕	川端康成	九、〇〇〇
石の枕を立てゝ	同	一三、五〇〇
柘榴の半片	同	一三、五〇〇
海豹の如く	同	一三、五〇〇
死線を越えて	同	一三、五〇〇
壁の聲きく時	同	一三、五〇〇
たゞ罪人のために	同	一三、五〇〇
國際スパイ實話	木村毅	一三、五〇〇
防諜とスパイ實話	小松澄	一三、五〇〇
北村小松	殺	一三、五〇〇
名刑事捕物實話	楠瀨正	一三、五〇〇
怪奇探偵實話	高橋定敬	一三、五〇〇
人	小栗虫太郎	一三、五〇〇
三國志（卷の二）	吉川英治	一一、七〇〇
柳生月影抄	同	一〇、八〇〇
茶濱	同	一三、五〇〇
三略	同	一三、五〇〇
南海の青雲	森莊十	九、〇〇〇
傳吉橋太郎	栗島狹衣	七、二〇〇
双乃南蠻船	村田吉邦	一〇、八〇〇
花咲く瀬降	三角寛	一三、五〇〇
大俠	山縣初男	一〇、八〇〇
密林の怪女	加藤博二	一八、〇〇〇
講談社の新繪本		
海軍大西鹿之介		
支那事變武勇談		
海の大西洋		
山中鹿之介		
漫畫と軍國繪物語		
家族ロビンソン	T・W・ウイス	六、〇〇〇
支那文學選	佐藤春夫	六、〇〇〇
幼き者の旗	氏眞	六、〇〇〇
名作	大洋	八、〇〇〇
密林の王者	南洋一郎	一三、五〇〇
修養	新渡部稻造	一二、六〇〇
人と修養	增田義一	一三、五〇〇
肚と頭と勘	中山盛行	一三、五〇〇
道德と教養	河上徹太郎	一〇、八〇〇
東洋道德研究	西晉一郎	一八、〇〇〇
福澤諭吉の人と思想	岩波書店	一〇、八〇〇
ポケット榮枯譜	五島慶太	一三、五〇〇
日本精神研究	大川周明	九、〇〇〇
わが愛する生活	石川武美	一六、二〇〇
産業と人間	喜多村浩	二七、〇〇〇
ミル自由論、功利論	J・S・ミル	一八、〇〇〇
宗教と人間	佐藤勝也	一三、五〇〇
新佛教の發見	谷口雅春	一一、七〇〇
超宗教を經つるまで	同	一四、四〇〇
聖愛	谷口雅春	一三、五〇〇
絶對的理性主義	日熊光子	九、〇〇〇
社會政策の基本問題	ルビンとユタイン	四九、五〇〇
藝術哲學	大河内一男	二二、五〇〇
現代詩人集	川田順	一〇、八〇〇
現代的使命	伊藤信吉	一八、〇〇〇
詩論	杉村一枝	一三、五〇〇
詩篇	山雅房	一六、二〇〇

書籍名	著者	定價
靜かなる愛（詩集）	竹内てるよ	七、七〇〇
白衣の魂	古屋糸子	九、〇〇〇
良寛和尚、橘曙覽	相馬御風	一六、二〇〇
ナイチンゲール	リットン・ストレイチ	一四、四〇〇
世界史入門	赤木健吉	二五、二〇〇
皇國大日本史	渡邊幾治郎	一〇、八〇〇
新日本外史	菊池寛	二八、八〇〇
現代日本文明史（政治篇）	嫌山政道	三一、五〇〇
日本郷土學	山田内通敏	
岩波文庫		
聖教要錄	山鹿素行	二、〇〇〇
古今著聞集（上、下）	黑板勝美	二、〇〇〇
日本の目覺め	岡倉覺三	二、〇〇〇
形而上學	伊藤梅宇	四、〇〇〇
見聞談叢	夏目漱石	六、〇〇〇
漱石小品集	夏目漱石	六、〇〇〇
一房の葡萄	有島武郎	二、〇〇〇
歡學異抄	金子大榮	二、〇〇〇
科學義	同	四、〇〇〇
アルプス紀行	ライ・ハウクスリ	八、〇〇〇
孝經・曹子	武内義雄	四、〇〇〇
夢の夜の	パジョン・チンダル	四、〇〇〇
夏の成	シェクスピア	四、〇〇〇
未年	ドストエーフスキイ	八、〇〇〇
千一夜物語	豐島與志雄譯	四、〇〇〇
聖アントワヌの誘惑	フロベール	六、〇〇〇
三つの物語	同	四、〇〇〇
魔の山	トオマス・マン	四、〇〇〇
入江直祐譯	同	四、〇〇〇
サッカレ		
新潮文庫		
小説研究十二講	木村毅	五、〇〇〇
近代文藝十二講	生田長江	六、五〇〇
日本近世文學十二講	高須芳次郎	六、五〇〇
前田夕暮集	前田夕暮	三、五〇〇
佐々木信綱集	佐々木信綱	九、〇〇〇
虞美人草	夏目漱石	一、七〇〇
伊豆の踊子	川端康成	一、七〇〇
峠	同	一、七〇〇
と高原	同	一、七〇〇
追ひつめられる男	同	一、七〇〇
岩波新書		
死とは何か	J・ハクスリ	一、〇〇〇
人種の問題	同	一、〇〇〇
今日の戰爭	ポッニー	一三、五〇〇
ファラデー	矢島祐利	九、〇〇〇
スエズ運河	ションフィールド	七、二〇〇
結婚・友情・幸福	アンドレ・モロワ	一、〇〇〇
初生雛雌雄鑑別の研究	富山房	一八、〇〇〇
土壤肥料相談	松木五樓	一八、〇〇〇
蔬菜園藝相談	小田鬼八	一八、〇〇〇
果樹園藝相談	大崎守	一八、〇〇〇
養鶏家禽相談	伊藤雄吉	一八、〇〇〇
果樹園藝精說（上、下）	中川慶實	九、〇〇〇
柑橘の研究	田中長三郎	三六、〇〇〇
葡萄の研究	大井上康	一七、〇〇〇
農業教授法詳論	七澤吾嘉	一七、〇〇〇
果樹園經營と果樹栽培	關戸壽太郎	二五、二〇〇
蔬菜（蔬菜）	渡邊誠三	一〇、八〇〇
肥料土壤寶典	鵜田萬平	二六、〇〇〇
養豚の實際（上、下）	永田厚平	一八、〇〇〇
管理會計	青木倫太郎	一九、八〇〇
販賣企畫の實務	ダイヤモンド社	一八、〇〇〇
實踐貿易の實務	同	二〇、〇〇〇
減價償却の實務	同	二五、二〇〇
工場組織の實務	同	二〇、〇〇〇
計學	黑澤清	四九、五〇〇
金融學說研究	杉浦治七	一八、〇〇〇
戰爭・經濟・生活	高木友三郎	一五、三〇〇
最新の自然科學	原田三夫	八、〇〇〇
續山電氣工學	實藤修作	八、〇〇〇
短波受信機	爲瀨芳驛	八、〇〇〇
高速度通信機	谷口康雄	八、〇〇〇
故障修理の知識（上）	大井倩三	一八、〇〇〇
同（下）	同	一六、二〇〇
スーパー（テロダイン受信機）	上島鐵也	八、五〇〇
無線用變壓器	松本進	八、五〇〇
無線工學の基礎	中澤正夫	二六、〇〇〇
力學演習（上、下）	若桑光雄	五二、二〇〇
有機化學大要	妻木德一	二五、二〇〇
眞文庫		
眞と現像法	鈴木八郎	四、〇〇〇
タンク現像法	岡宏次	四、〇〇〇
寫眞と（ハイキング）	同	四、〇〇〇
夏の撮影	井深徹	四、〇〇〇
子供の世界	猪野喜三郎	四、〇〇〇

書籍名	著者	定價
軟焦點寫眞	同	四、〇〇〇
現像の第一歩	吉川逸男	四、〇〇〇
燒付の第一歩	同	四、〇〇〇
夜景の撮影	岡本守正	四、〇〇〇
スナップの撮り方	演谷浩	四、〇〇〇
トリミング實習帖	眞龍不二夫	四、〇〇〇
女の表情	福田廣治	四、〇〇〇
花の寫し方	同	四、〇〇〇
靜物寫眞の作り方	同	四、〇〇〇
動物の寫し方	石津良介	四、〇〇〇
引伸機の選び方	北野邦雄	四、〇〇〇
カメラの知識と選び方	鈴木八郎	一二、六〇〇
カメラを使ひこなすコツ		一二、六〇〇
寫眞別伸法	小林秀二郎	九、〇〇〇
ローライ寫實術	北野邦雄	二〇、七〇〇
實用農業簿記のつけ方	森實重	九、〇〇〇
堀場式養鷄法	堀場鈴吉	一三、五〇〇
農事實行組合	同	一三、五〇〇
生鮮食料品配給の統制	加藤健之助	二八、八〇〇
經濟原論	福田敬太郎	二八、八〇〇
抒情悲曲集（ヴイオリン、マンドリン）	高橋誠一郎	二八、八〇〇
高等ハーモニカ獨習	宮田東峯	五、四〇〇
ハーモニカ獨習書	同	三、二〇〇
ハーモニカ獨習書講談	同	三、二〇〇
愛	宇野浩二	一一、七〇〇
折衷小説	川口松太郎	一六、二〇〇
中央アジア熱沙行	津川主一	九、〇〇〇
春日俊吉	吉田絃二郎	九、〇〇〇
手紙の書方	大西貞治	一〇、八〇〇
ペン習字上達法	猛彌正澄	二一、五〇〇
ペン手紙文の書方	小松殺	九、〇〇〇
釣りのこつ	大塚彌平	九、〇〇〇
狩	野坂正彥	一〇、八〇〇
犬の正しい飼ひ方と病氣の手當	板垣四郎	二二、五〇〇
代數學演習	大上茂喬	三八、七〇〇
數のシーズン	吉岡修一郎	一六、二〇〇
家庭療法全集	主婦之友社	一八、〇〇〇
健康料理	同	一〇、八〇〇
洗濯と衣類整理	同	一〇、八〇〇
横範醸業書簡文の學び方	石田文四郎	九、〇〇〇
ペン手紙大辭典	大西貞治	一二、〇〇〇
手紙の書方	主婦之友社	一〇、八〇〇
ペン習字	高橋觀城	七、五〇〇
日常挨拶の仕方	池田宙堂	七、〇〇〇
挨拶と演說	山口和喜	九、〇〇〇
簡明漢和大辭典	北村澤吉	一五、〇〇〇
實用漢和大辭典	新田興	一六、〇〇〇

昭和十五年度
運動年鑑
大阪朝日新聞社發行
定價十一ミル七〇〇

新文藝思想講座
文藝春秋社發行
全十卷・菊版・紙表紙
定價九三、〇〇〇（送料共）

御註文は總て割金にて御顯ひ致します。御送金は銀行小切手、パレポスタール、コンヴアロール何れでもよろしふ御座います。送料は一冊七〇〇レース、二冊一、〇〇〇、三冊一、四〇〇それ以上は割記計算を繼續します。品切の節の豫備に、三寶名御記入願ひます、御名御住所は和蘭兩文にてハッキリ御書き下さい。T. Yendo以外の宛名は受取に困難です。

聖市 遠藤書店
Caixa Postal, 2878
São Paulo

二千六百年祝典記念章成る

藍色の地に八本の赤線

八紘一宇の時局型！

東京高等工藝教授　畑正吉氏のデザイン

今上陛下御即位の佳き日たる十一月十日、畏くも天皇、皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ奉り、宮城外苑に於いて催される政府主催の紀元二千六百年奉祝大式典に參列者二十万人へ、この瞬古の盛典を永遠に記念する表章として紀元二千六百年祝典記念章が御授與される事は既報の如くであるが、賞勲局の委嘱を受けた造幣局では、銀意その製造を急いでゐた處この程立派に全部が出來上つた、最初銀製にする豫定であつたが資材配給のため直徑三センチのアルミ青銅製となつたものである東京高等工藝教授畑正吉氏のデザイン、表は御紋章に二重橋を、裏面は紀元二千六百年祝典記念章の文字を浮き出してゐる、これに八紘一宇を表した藍色の地に八本の赤線を引いた見事な紋がついた時局型のものである（カットは記念章）

自動車の激增に伴ひ

道路急速に發達

ブラジル國内に於ける交通道路は自動車が輸入され、各地方生産物の運輸に使用されることと平行的に頻繁も又急速に四通八達して來たが、最近當局の總表するところに依れば、全長二十六万三百二十六粁の自動車道路の開通となつて居り、其の内、聖州は四万八千粁餘でブラジル全體の約二割の道路網を有して居る、特に最近當政者が道路開發に力を注ぎ、各郡は競つてこれが完成を急ぎつゝあるかの感がある「國土の發展は交通に待つ」といはれて居る、ブラジル進展と相待つて、交通網の完成するは遠くあるまい

些細な事から

コロノ監督を射殺

北パラナ・サンタマリアナ驛を距たる三粁米突の邦人集團地セントラルの隣接地になるジュゼパイバ耕地では去る火曜日午后一時頃農園監督とカマラーダ間に些細の事から爭鬪演じられ遂に伯人監督はコロノからピストルの亂射を浴びせられ殺害された驛きに急報に接し直ちに警察より係官臨付加害者を逮捕した

埋れ行く拓人の足跡

煙草を卷く元判事

南樹（43）

（一）

隈部三郎氏はイギリス法律學校卒業者で、令夫人五百子さんは青山女學院出身である。三郎氏の郷は熊本で、五百子さんが東京生れだと云ふ點から見ると此結婚は見合に依つたものでなく、或は戀愛から出發したのではないかと思ふ。何しろ明治二十年頃のことなので、イギリス法律學校なぞと云ふ學校は東京のどの邊にあつたものか判らないが青山女學院は若も今も變りはない。私も青山學院に半年ばかり籍を置いたことがあるので、あの邊の靜かな美くしい風景が眼に浮んで來る。若し二人に愛し愛された樣なローマンスがあつたとせば、あの樹木の多い、赤十字社の方へ出る道を幾度もそゞろ歩きしたことであらう。蘆花の「ホトトギス」のモデルだと云はれる大山侯の邸宅が近くにあるので、私は一層さうした想像に支配される。暮鐘をかけた若鮎の如く溌剌たる新女性五百子さんとインテリな眼の凹んだ三郎氏との結婚は何れにせよ、誠にふさはしいものであつた。その年月が國會開設の明治二十三年だと云ふから、日本國民に取つて忘れられない歴史的バックの裡に彼等が人生の第一歩を踏み出したのも面白い。

隈部氏が學校を出て鹿兒島區裁判所判事を拜命したのは明治二十二年であつた。十年後に判事を辭し、緑護士を開業、明治三十九年渡伯直前迄十七年間の長きに亘つて鹿兒島市に櫻島の噴煙を望みつゝ暮した歴史である。

（二）

明治二十年代の判事と云ひ緑護士だと云へば、日本の上層社會に屬するのである。それがどう云ふ譯で渡伯の決心を起したかと云ふに、其直接原因は日露戰爭である。彼は此戰爭の眞只中から厭氣ながらも、日本民族の世界的使命を感じ、苟くも志あるものは妄然として母國に止むべきでないことに氣付いだ。彼は先づ自己の志望を濠洲の廣野に行つて果たさんと考へた。

時しも大阪朝日に杉村公使の「ブラジル珈琲園視察報告」が連載され出した。彼は恰も磁鐵に吹ひ寄せらるゝ鐵片のやうに魅きつけられた、彼は色々な觀點から幾日も考慮した後到達した結論は「濠洲に行く人は他にいくらもあるから、自分はブラジルに先驅して一粒の麥ならう」と云ふことであつた。五百子夫人がクリスト教の感響を受けて居る丈に、物質子が地に落ちて腐れなければ新らしい宇宙と生長のないことを最もよく知つて居た、彼等二人はかう決心した時、新婚以來の大きな感激に打たれて一夜殆ど眠れなかつた。

隈部氏の此志望が鹿兒島新聞の特種子のニュースとして大きな活字となつてあらはれると、安田良一、九玉吉藏、長廣某、鳥井某等の人達は驚きの聲に應ずるが如く「私をブラジルに連れて行つて下さい。」「私も」と云ふ風に集まつて來た。彼は何一つ確然たる當のないブラジルへ自分と共に生命を共にしやうと云ふ是等の青年の内に日本民族の溌剌たる氣魄と膽力性とを認見してよろこんだ。

万端の準備なつて厳やかな渡伯團が鹿兒島を出發し、神戸に向かつたのは明治三十九年五月であつた。明治天皇一行と過然出會したのは此折りである。

彼は茲で意外な報道を耳にした。それは駐伯公使杉村氏が急性腦出血で逝いたと云ふ事、一人は若を、他はラパ、別の子は――といふ具合で、實に調子の合つたリズミカルなバルサの曲、通行人も足を暫し止めて……

◇

リオ來電によれば、日伯文化協會主催で、大橋夫妻畫伯歡迎會カクテル・パーテを昨日午后五時から同協會内で開きブラジル人畫伯及び在留邦人も混じへ盛大であつたと

◇

ソロカバナ線ラランジアル驛の鋼鐵工場の生産高は毎年、五〇〇噸といふこれに依つてほゞブラジル需要高に達するもの

◇

「自分の伴侶は是非日本婦人」の年來の念願かなひ過般日本留學の際見事大和撫子（菊池氏令嬢）と結婚して歸伯、現在リオ市に睦まじい家庭を持つモラット・パレーロ君は昨日來聖し移住者の用件で海興を訪ね流暢な日本語で用談を終へ、何時要務あつて昨夕マ

◇

パラ州訪問中のゼツリオ大統領は、九日アマゾナス州自府マナオスに向つた

◇

ブエノス・アイレスの市民は過日の馬鹿を見やうと觀々から準備をして待つたが、相憎曇天だつたので、チョットも見られなかつたので殘念がること／

◇

オーケストラ・イングラッシヤッテとは變な名の樂團、實はコレイオ廣場の近くカフェアカデミコの角での奏樂、靴磨、一人は箱を、他はラッパ、別の子は――といふ具合で、實に調子の合つたリズミカルなバルサの曲、通行人も足を暫し止めて……

◇

リオ來電によれば、日伯文化協會主催で、大橋夫妻畫伯歡迎會カクテル・パーテを昨日午后五時から同協會内で開きブラジル人畫伯及び在留邦人も混じへ盛大であつたと

◇

ソロカバナ線ラランジアル驛の鋼鐵工場の生産高は毎年、五〇〇噸といふこれに依つてほゞブラジル需要高に達するもの

◇

「自分の伴侶は是非日本婦人」の年來の念願かなひ過般日本留學の際見事大和撫子（菊池氏令嬢）と結婚して歸伯、現在リオ市に睦まじい家庭を持つモラット・パレーロ君は昨日來聖し移住者の用件で海興を訪ね流暢な日本語で用談を終へ、何時要務あつて昨夕マ

近し！

日本側準備萬事OK

恒例リオ市主催國際見本市

來る十一月十日より十二月廿一日迄開催される恒例リオ市主催國際見本市は日本からも戰後の第一歩に偏へ貿易促進と商權擁護のため日本商工會議所及び中南米輸出入組合から敢然參加する事になり、在留邦商側もリオ日伯商工會議所並に聖市日本商業會議所がこれら母國二組合と連絡をとり、殊にリオ日伯商工會議所では地元の關係上オランド・ソアレス・カルバーリョ氏を委員長に、勝山商務官を副委員長にその他數名の委員を擧げて準備に万全を期してゐる事は既報の通りであるが、母國からの出品物は廣範且多量に上りその大半は既に到着し、今月下旬着航のぶらじる丸積み込みの分で出品物全部が出揃ひ準備万事OKである、聖市側邦商からの出品物はその本店、支店がみである

老後の一役孫の世話でも……

七十婆さんブラジルへ一人旅！

長、現南米土地株式會社支配人正木吉右衛門氏輸送監督の下に二百名の移住者が來伯するが、その中の變り種は今迄、只過般リオ市に支店を開設したA―O商會が此の機を利し更に一歩を進めて日本藥品の宣傳に若干の藥品を送るのと他に二、三の商社あるのみである

淀川さん南米に返り咲き

九日の外務部命を見ると、元墨市總領事館に在勤し、我々と馴染の深い領事淀川正樹氏は兼任公使館二等書記官としてベルー國在勤を命ぜられた（寫眞は淀川領事）

年七十二歳のお婆さんがじかもたつた一人で雲煙萬里の大洋を渡り三人の孫掬きたさに通々ブラジルに來ると云ふのがある――この時島婆さんの名は西たみさんといひ婆さんの長男西謙次郎氏は約二十年前渡伯、現在ソロ線プレシデンテ市小學校々長として敏職にあるが「どこで死なうと同じこと、老後の一役、孫の世話でもしてやりませう」とぶらじる丸に乘込んだものであるたみさんは大阪府外事課で渡航手續の際、係員に左の樣に語つた

「私は紀州新宮に生れ、十年前銀鍋に當る者を訪ねて來阪したまゝ、どこへも旅をした事がありません、あちらには息子も娘も三人の孫もありますからかへつて賑やかです、幸ひ體は達者で、明治三十九年渡伯直前迄十七年間の長きに亘つて鹿兒島市に櫻島の噴煙を望みつゝ暮した歴史である。

（二）

明治二十年代の判事と云ひ緑護士だと云へば、日本の上層社會に屬するのである。それがどう云ふ譯で渡伯の決心を起したかと云ふに、其直接原因は日露戰爭である。彼は此戰爭の眞只中から厭氣ながらも、日本民族の世界的使命を感じ、苟くも志あるものは妄然として母國に止むべきでないことに氣付いだ。彼は先づ自己の志望を濠洲の廣野に行つて果たさんと考へた。

時しも大阪朝日に杉村公使の「ブラジル珈琲園視察報告」が連載され出した。彼は恰も磁鐵に吹ひ寄せらるゝ鐵片のやうに魅きつけられた、彼は色々な觀點から幾日も考慮した後到達した結論は「濠洲に行く人は他にいくらもあるから、自分はブラジルに先驅して一粒の麥ならう」と云ふことであつた。五百子夫人がクリスト教の感響を受けて居る丈に、物質子が地に落ちて腐れなければ新らしい宇宙と生長のないことを最もよく知つて居た、彼等二人はかう決心した時、新婚以來の大きな感激に打たれて一夜殆ど眠れなかつた。

隈部氏の此志望が鹿兒島新聞の特種子のニュースとして大きな活字となつてあらはれると、安田良一、九玉吉藏、長廣某、鳥井某等の人達は驚きの聲に應ずるが如く「私をブラジルに連れて行つて下さい。」「私も」と云ふ風に集まつて來た。彼は何一つ確然たる當のないブラジルへ自分と共に生命を共にしやうと云ふ是等の青年の内に日本民族の溌剌たる氣魄と膽力性とを認見してよろこんだ。

万端の準備なつて厳やかな渡伯團が鹿兒島を出發し、神戸に向かつたのは明治三十九年五月であつた。明治天皇一行と過然出會したのは此折りである。

彼は茲で意外な報道を耳にした。それは駐伯公使杉村氏が急性腦出血で逝いたと云ふ事、一人は若を、他はラッパ、別の子は――といふ具合で、實に調子の合つたリズミカルなバルサの曲、通行人も足を暫し止めて……

◇

リオ來電によれば、日伯文化協會主催で、大橋夫妻畫伯歡迎會カクテル・パーテを昨日午后五時から同協會内で開きブラジル人畫伯及び在留邦人も混じへ盛大であつたと

◇

ソロカバナ線ラランジアル驛の鋼鐵工場の生産高は毎年、五〇〇噸といふこれに依つてほゞブラジル需要高に達するもの

◇

「自分の伴侶は是非日本婦人」の年來の念願かなひ過般日本留學の際見事大和撫子（菊池氏令嬢）と結婚して歸伯、現在リオ市に睦まじい家庭を持つモラット・パレーロ君は昨日來聖し移住者の用件で海興を訪ね流暢な日本語で用談を終へ、何時要務あつて昨夕マ

呪ひの火

珈琲園を燒丸

北巴サンタマリアナ驛セントラル區近くの某外人珈琲園は何處から飛んで來たか判らぬが先頃呪ひの火に禍され成樹カフェー壹萬五千本を丸燒された外樹藤氏は五百本、秋吉氏は百五拾本、藤風氏は百本を燒失辛ふじて附近へ延焼するのを消し止めた

商權擁護と貿易促進に

日本側準備萬事OK

恒例リオ市主催國際見本市

來る十一月十日より十二月廿一日迄開催される恒例リオ市主催國際見本市は日本からも戰後の第一歩に偏へ貿易促進と商權擁護のため日本商工會議所及び中南米輸出入組合から敢然參加する事になり、在留邦商側もリオ日伯商工會議所並に聖市日本商業會議所がこれら母國二組合と連絡をとり、殊にリオ日伯商工會議所では地元の關係上オランド・ソアレス・カルバーリョ氏を委員長に、勝山商務官を副委員長にその他數名の委員を擧げて準備に万全を期してゐる事は既報の通りであるが、母國からの出品物は廣範且多量に上りその大半は既に到着し、今月下旬着航のぶらじる丸積み込みの分で出品物全部が出揃ひ準備万事OKである、聖市側邦商からの出品物はその本店、支店がみである

北パラナで奇病發生

北パラナコンゴニアス方面に先頃來奇妙な病氣が流行してゐる、發熱三十九度以上が連日續き、頭痛はないが、下痢を伴なひ、マレッタ熱に似てゐる、外人二名、日本人子供一名死亡し、罹病の系統が虫類に刺されての媒介ではないらしく、主にベスカーに行く人達が感染してゐるところを見ると、病源は川の附近にあるらしい日常衛生を守り身體壯健の家庭には病魔は侵入してゐないから豫防には各人が養生する外方法はないやうだ

虛子先生の短冊が

俳句の一等賞品へ

神奈川線灯や初詣

線陰を出れば明るし芥子は實に

此の二句は共にホトトギス誌上「外國の俳句」欄に外國語に譯された名句で、神國日本の句一つと、初夏の句一つとである、本社文藝欄が新の如く俳句を懸賞募集してゐるが、此の一等賞品として母國俳壇の大先輩高濱虛子先生から名筆を揮はれた左の短冊二枚が佐藤念腹先生の手を經て此の程本社に到着した

本社では皇紀二千六百年記念に際し、一般の俳句愛好者に對し、「外國語に譯された俳句」の一等賞品として、虛子先生の短冊を贈呈する事は力强い限りである

海興銀行

聖市支店開設披露宴

海興銀行では豫てノロ線アラサツーバ市に支店を開設する爲めその準備を進めてゐた所、愈々來る十二月、日伯人多數を招待して開店披露宴を催す事になり海興側からは坂元次郎が出席のため昨夕聖市を發つて同地に向つた

重要商品市況

十月日八日　實價　賣價

○バタタ　六〇キロ　アマレーラ　エスペシアール　七八、八〇、

○スペリオール　六、七

○マンヂョカ粉　三、三三

○アルフアフア　キロ　四〇　六〇

○小麦粉一級　四五　四四

○砂糖　以下六〇キロ入

上等　七一、五　七二

上等　六八、五　六九

○アエゾン　六〇キロ

△ボムチンエ　スペリオール　七四　七五

エスペシヤル　七八　八〇

ボン　七〇　七二

レグラール　ノミナル

△コーレス　六〇キロ

ブ・グラード

ロシンエロ　ノミナル

シュシピンエロ八二　八三

△ミリヨ　六〇キロ

アマレリンエロ三、三二

アマレロ　三、三二、三、六

アマレロン　三、五　三、六

△アロースアグリア

アマレロン

エスペシアール　七七　七八

スペリオール　七一　七二

ボン　七一　七二

ブランコ

エスペシアール　六九、七〇

スペリオール　六二　六三

ボン　六五　六六

レグラール　ノミナル

△カテチ

エスペシアール　五〇　五一

スペリオール　四九　四八

ボン　ノミナル

△メイオ　四四　四五

△キレーラ　四七　四八

○セボーラ　リオグランヂ

六〇キロ　ノミナル

○マモナ　キロ　二〇〇　二一〇

○バニヤ　南大河

二〇キロ　一六七　一六八

（オザスコ相場）

○豚　二七、五　三、二

○ゴールド　二六、

○マーグロ

蔬菜相場

十月九日

コチア產組調　安値　高値

トマテエスペシアル　二六　二〇

ブリメーロ　二九　三三

セグンド　二四　二八

レボーリオ　二〇　二四

ビメントン　二〇　二二

ページ　二二　二六

エルビーラ　二二　二八

ポブリンニョ　二二　二六

ペピーノ　二二　二六

人參　二〇　一、〇〇　一、一〇〇

バタタ　一〇　一八

コベフロール　一〇　一八

なす　一〇　一八

玉子　一、一〇〇　一、二〇〇

和文書文の活版印刷
廉價叮嚀調達
R. Irmãi Simpliciano, 30
サン・ジョゼー印刷所
萩原善五郎
電話三―五三三八番

至急入用
子供（なるべくなら少年）
十五才―十八才迄、傳過す。
詳細は面談の上
パラリオ・ラロ驛　アベニーダ四八六バスチラリーア
ポナボネーズ　大西芳信

求・大工職人
多少經驗のある方　壹名
アジエンダンテの方　壹名
（午前七時半―午後六時迄）ルアーマルコ・アルーダ七八番（ベレン區）・シニーノ・サンシ・ヨンドニア　浦山

CARMO GRAZIOSI & CIA.
RUA PAULA SOUZA, 286
ソルベッチの器具用品なら
聖市のカルモ・グラジオージ
商會に限ります。
先づ求あれ。

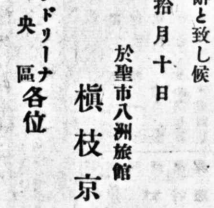
防腐劑絶無
保証
日日乃乃華本
銘酒

Restaurante
Caverna Paulista
R. Libero Badaró, 39
Tel. 3-2978 - S. Paulo
聖市第一流料理店
各種内外飲料物
御家族向きの場所
寝會、婚禮には
特別サービス
賣食　夕食　七軒

伯刺西爾時報社
吉川政次郎
聖市近郊方面
柳沼爲四郎
ウベラバー
ブラゾリヤ
イガラバーバ方面
中川忠吉
○パタタエス
フランカ
パツツス
ウベラバー
ブラゾリヤ
イガラバーバ方面
渡部兵吉
○グロランヂン
パウルー
アルチナ
ベデルネエラ方面
田代重守
○リンス附近
中村滿志
○アララクアラ線
トラヂンセ線方面
サンパウロゴトス線
棟形昇
○聖市近郊方面
S.P.R.線方面
柳沼爲四郎
○パウリスタ本線方面
中川忠吉

至急
店働きの御婦人の方
一名入用
（廿才前後）
ブラツサ・ダ・レプブリカ三百
中岡

社告
謹啓　時下益々御清祥之段慶賀候　陳者弊社各外交員を頒書の地に差向け居り候間宜敷く御配慮の程御願申上候
○聖市市内　菊地鐵彌
○マリア、ベラクルース
ダヤフア、ゼリヤ
フエルナンデア方面
本多彬
本多聖
○ア・マクシヤード
ア・ブルアンテ
マルチノポリス
インゲアナ方面
茂木源太郎
○グリツサイ
アリアンサ
チエテ方面



歸國御挨拶
謹啓　各位益々御清祥之段奉賀候
陳者小生儀都合に依り來る十五日サントス港解纜のぶらのす丸に便乘歸國致す事と相成候在伯中は一方ならぬ御交誼を賜り猶又出發に際しては多大なる御餞別並に遠路態々御見送り被下御芳志の程厚く御禮申上候
實は一々拜趨御禮申上ぐ可き筈の處乍略儀紙上を以て皆樣の御健闘を祈り御別れの辭と致し候
拾月十日
於聖市八洲旅館
槇枝京次郎
ロンドリーナ
中央區各位

Akaki & Cia.
COMMISSOES - CONSIGNAÇOES E CONTA PROPRIA
Rua Santa Rosa, 473 - S. Paulo
農產物賣買
委託販賣
赤木商會
電話二・九〇八一
郵一八九七

母國のお土産には
純日本式
特製ふとん綿を!!
本品は、完全なる設備と優秀なる技術に依つて絶對に他品の追随を許さぬ自信を以つてお奬め出來る
唯一のふとん綿
聖市コンデ・ド・ビニヤール街七九番で御座います
小畑製綿所

急!!
石崎庄衛君
住所知らせ
バウルー市　國井支店
播本生

Dr. Alarico Franco Caiuby
ADVOGADO E
Tsuguo Kishimoto
TRADUTOR PUBLICO
Escritorio: R. José Bonifacio, 233
3.o and. salas 310/312 - Tel. 2-1137
C. P. 1124 São Paulo
法律一般
譯
日本語
アラリコ語
公証翻譯人　岸本次男
顧問　アラリコ・フランコ・カユビー
事務所　聖市ロッピ・ボニフアシオ街二三三番
三階三一〇―三一二號室
郵函一一二四　電話二一一三七

Redação - Rua Fagundes, 190
Telephone 7-4670
Caixa Postal H
Director M. Samesima

NOTICIAS DO BRASIL

Proprietario SEISAKU KUROISHI

Assignatura Anno . . . . 60$000
" Semestre . 30$000
Numero de dia . . . 300 reis
Gerente S. Kuroishi
Redator-chefe M. Yendo

ANNO XXIII — S. PAULO — QUINTA FEIRA 10 de OUTUBRO de 1940 — DIARIO No. 2305

Edição Brasileira

Traducção dos artigos principaes em lingua japoneza

Rosário de Invasões

Enquanto a guerra europeia estaciona num estado que se poderia denominar de «atividade compensada», ue parte a parte ,sem arrancadas importantes recordemos, embora sumariamente, as invasões de que a Inglaterra tem sido objeto Tenha-se em mente porém, que as ilhas britânicas nunca foram invadidas pelo extrangeiro sem o concurso da população interna, apesar de, com esse concurso as invasões se haverem repetido neste milênio, com impressionante frequência.

Para estabelecer um ponto de partida assinalemos que, a 28 de setembro de 1066 Guilherme, duque da Normandia desembarcou suas forças em Pevensey vencendo o rei Haroldo II. em Hastings a 14 de outubro, e coroando-se rei no dia de Natal desse ano com o nome de Guilherme I. Em 1069, este soberano sufocou uma revolta em York, repelindo os invasores dinamarqueses que haviam invadido o país com a aliança dos revoltosos.

O rei Malcolm III ,da Escocia realizou a seguir, cinco invasões da Grã-Bretanha sendo a primeira em 1070 e a quinta em 1093. Em 1098, o rei Magnus da Noruega, invadiu a ilha de Man. A 19 de julao de 1101, Roberto da Normandia filho de Guilherme, o Conquistador invadiu a Inglaterra. Em 1103 o citado rei Magnus, da Noruega invadiu a Irlanda sendo que esta invasão terminou com a morte do chefe invasor.

A 30 de setembro de 1139, o exército de Matilde, filha de Henrique I e esposa de Godofredo Plantageneta desembarcou perto da Arundel. Em 1152 Henrique, filho de Matilde e de Godofredo repetiu a mesma invasão coroando-se rei em 1154, com o nome de Henrique II, e implantando a dinastia dos plantagêntas. Em 1155, o rei Evstein Haraldson, da Noruega invadiu a costa ocidental da Inglaterra. Em novembro de 1215 o rei Felipe II da França invadiu a Grã-Bretanha a favor dos barões que se haviam rebelado contra o rei João, filho de Henrique II.

Em janeiro de 1216, o principe Luiz, da França depois Luiz VII, invadiu a Inglaterra e ocupou Londres em maio desse ano. A 24 de setembro de 1326, Isabel filha de Eduardo II, invadiu a Grã-Bretanha, com um exército preparado pelo conde de Hainault, de uma provincia da Bélgica Em 1338, um exército francês desembarcou em Portsmouth Hampshire, e incendiou a cidade fazendo o mesmo em Southampton. Em 1342, os franceses queimaram de novo Portsmouth. Em 1377, outras forças francesas desembarcaram na Inglaterra incendiando Hastings e Rye, e devastando a ilha de Wight. Em 1380, os franceses de novo queimaram Gravesend, devastando a costa inglesa de Portsmouth a Romney. Em 1402, os franceses capturaram Plymouth: em 1403, os mesmos franceses incendiaram Plymouth e Tenby. Em 1405, outra força franceza desembarcou um Milford Haven em Gales, onde permaneceu até ao ano seguinte. Em 1416, os franceses invadiram a ilha de Portland.

A 2 de março de 1471, durante a guerra das duas rosas o rei Eduardo IV, da casa de York, partiu de Flushshing na Holanda, desembarcando em Ravenspur (Spurn Head) doze dias depois e capturando Londres a 11 de abril. A 22 de agosto de 1485, Henrique, filho do conde de Richmond, desembarcou em Milford Haven derrotou o rei Ricardo em Bosworth, e coroou-se rei a 30 de outubro desse ano com o nome de Henrique VII, fundando assim a dinastia dos Tudor.

Em 1514, os franceses entraram em Sussex. incendiando a cidade. Em 1545, outra força francesa desembarcou em Bembridge na ilha de Wight. Em 1579, uma expedição espanhola invadiu a Irlanda, mas todos os invasores foram mortos pouco tempo depois. Em 1595, os espanhois desembarcaram em Cornwall, onde queimaram várias cidades, inclusive Penzance Em 1667 os holandeses entraram em Medway bombardearam chatahan e subiram o Támisa. A 11 de junho de 1685, Monmouth, filho de Carlos II desembarcou em Lyme Regis Dorsetshire.

A 1.º de novembro de 1688, Guilherme, principe de Orange, partiu de Hellevoets uis Holanda, desembarcando em Torbay a 5 de nobembro; entrou em Londres onde foi coroado rei a 11 de abril do ano seguinte.

A 12 de março de 1689 Jayme, que fôra derrotado por Guilherme de Orange desembarcou em Kinsale; novamente derrotado, a 1.º de julho de 1690 ,Jayme retirou-se da Irlanda. A 19 de agosto de 1745, o principe Carlos tendo saido de Nantes, na França ergueu, no vale de Glenfinnen o estandarte dos Stuarts proclamando-se rei da Escócia com o nome de Jayme VIII.

ZONAS DE INFLUENCIA

O pacto triplice entre a Alemanha a Italia e o Japão já recebeu varias interpretações autorizadas, se bem que contusas. E realmente, pelos seus termos obscuros ,ele pode suggerir as confusões até aqui lançadas por falta de coordenação entre os signatarios para dar-lhe uma expressão e um sentido uniformes.

Assim, se a beirou a de apenas jornalistas de um lado e pacifistas nes investe contra os Estados Unidos, dizendo que a aliança foi uma consequencia das attitudes do governo de Washington, sendo a grande nação americana a potencia neutra mais aircecia e claramente visada, no Japão já não se diz a mesma coisa. Um porta-voz de Tokio refere-se não ha duvida, ás relações futuras de seu paiz com a Inglaterra e os Estados Unidos, como a pretender deixar-lhes a responsabilidade do que possa advir das provocações do Eixo, mas demonstra que nos meios oficiaes nipponicos ainda se nutrem esperanças de solver as duvidas possivelmente existentes entre o Imperio do Sol e as duas potencias anglo-saxonicas.

Não é isto, entretanto, o que póde interessar os povos das Americas no teôr do tratado e na maneira de o interpretar. No texto, definiram-se as zonas de influencia, dando-se á Alemanha e a Italia o direito de decidir sobre a Europa e ao Japão direito identico quanto á Asia Oriental. E os interpretadores estenderam a definição do predominio incluindo a Russia entre os su tentaculos da nova ordem, ainda que restringindo esse predominio aos limites não fixados até agora do seu vasto continente — Russia Europeia e Russia Asiatica.

Deste modo como um elemento dis reo mas que se prometteu ao mundo — e que bella promessa — a cooperação sovietica! — o Colosso Eurasico, ainda que tardia a expiação não lo nas apparencias, esquecido. Mas é vingança de nota — por mais justa não se tome a sério o que minutar e politicamente significa esse pacto — a ausencia de qualquer menção ao Hemisphaerio Occidental além de algumas reverencias ao reconhecimento condicional da doutrina de Monroe.

Isto quer dizer que, para os concertadores da premeditada divisão do planeta, os territorios americanos hão de constituir um caso sujeito a exame posterior.

Colocados hegemonicamente sob a influencia dos Estados Unidos seria impolitico, e menos impolitico do que inconveniente como compromisso para com um paiz que se pretende anniquilar. Proclamar-lhes a inviolabilidade — que depende menos dos proclamadores — seria reduzir certas aspirações que estão nos planos da nova ordem, como já estavam no principio da conquista de materias primas e de espaço onde umas e outro existam facil ou violentamente conquistaveis.

Por isto, as Americas constituem uma pagina em branco no entendimento teuto-italo-japonez. E como os contratantes tiveram duvidas em preenchel-a agora, afim de não haver uma denuncia implicita ou explicita dos seus propositos, quando pensarem em fazel-o já a encontrarão tomada pelas palavras que formam o lemma do monroismo e que traduzem, hoje, a solidariedade consciente de povos que são eguaes, sem tutores e que decidem da sorte commum e dos seus communs destinos pelo consenso geral.

"A Inglaterra Mais Perto do que Nunca da Vitória"

LONDRES, 8 (Domei) — Pronunciando o seu discurso mais otimista desde que assumiu a chefia do governo britânico, o primeiro ministro sr. Wiston Churchill declarou hoje perante a Câmara dos Comuns que a GGrã-Bretanha está mais perto do que nunca da vitória, reiterando, porém, suas anteriores advertências de que o perigo de uma invasão alemã continuará sendo uma possibilidade latente. De acordo com a decisão tomada pelo governo na sua ultima sessão, não havia sido anunciada a convocação da Câmara dos Comuns para hoje. Os pontos principais do discurso do «premier» britânico foram:

1.º — Hitler tem, prontos para a invasão, 500.000 homens, além de barcos e equipamentos diversos;

2.º — a aliança tri-partite está dirigida principalmente contra os Estados Unidos, porém o está tambem contra os Soviéts;

3.º — o «prémier» confirmou a noticia de que o governo britânico reabrirá a rota da Birmânia no dia 17 deste mês, posto que o seu fachamento não produziu a esperada paz sino-nipônica;

4.º — a guerra aérea — até o sábado passado, o total das vitimas causadas na Grã-Bretanha pelos raides alemães era de 8.500 mortos e 13 mil feridos;

5.º — o caso da passagem dos seis navios de guerra franceses pelo estreito de Gibraltar, os quais contribuiram para o fracasso da ação contra Dakar não foi conhecido pelo governo sinão quando já era demasiado tarde para impedi-la. A afirmação de que a Inglaterra continuará dando pleno apoio ao movimento do general De Gaulle.

O NOTICIARIO ESTRANGEIRO DO «NOTICIAS DO BRASIL» E' FORNECIDO PELA AGENCIA TELEGRAPHICA «DOMEI» JAPONEZA

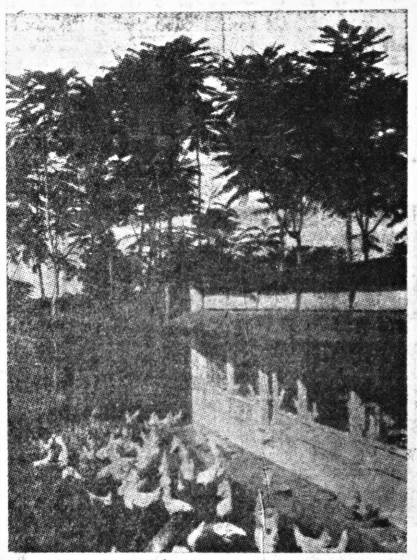
LEIA O NOSSO
KODOMO NO SONO
Spelmento do jornal "Noticias do Brasil"

たまんこの木

伯名グワブルブー 面白い特性の數々

聖州全る所に多少共無い所は無い程廣く植つてゐる庭木の一つにグワブルブーと稱する特長タップリな樹木がある、昨今丁度花盛りで黄色い蝶形花を湯山つけて仲々美事である、枝少く頂上に極く大型の複葉を叢生し、若木の間など一見椰子と甚だ似た姿を見せる、幹は若い間は全部綠色で盛長の早いこと驚くばかり、見る見る内に伸び上り、四年もすると可なりの大木になる冬になつて一霜來るや、さしもの大型の葉も見事に全部脱落して洵に無樣な丸坊主になるこの點が實はれて一部カフエーザールでは藤木用に採用され、又鶏舎の日蔭用としても相當習及してゐる、暑中は葉があつて暑さを防ぎ、冬季には葉無く暖かい日射しを充分受けさす點が喜ばれてのことであるけ謂ふまでも無い又この木の材がタマンコ用として現在唯一無二の物で非常な需要がある、何しろ成長の早いことは前述の通りで、四五年もすれば一かど物の用に立つから重宝である、一説にグワブルブーの十年物を倒せば一本百兩だといふから相當儲け材料の一つであることを屢書きしてゐる、某日本人集團地ではこれをタマンコの木と命名して栽培奬勵してゐる今丁度種まきから初める好季節、豆豆大の極大の非常に固い種、カンテイロを作るに當つて先づ四十五度程の（番子）灰汁：あくじる……に一晩漬け、良く水洗ひし、再び四十五度程度の湯に今一晩漬けて充分表皮をふやけさせてから播く可きである、割合發芽率は宜い

この豆科植物は伯國が原產地だけに何處でも心配無く育ちつから面白い、豆科植物特有の强味である（挿圖たまんこの木と農業）



棉の話題

農經時報

何處も同じ秋風 世界中思はしい所無し

植えつけ季に入つた棉作農家には相場は問題外だから世界の棉界の動きをこの際、參考資料として少々申上げる

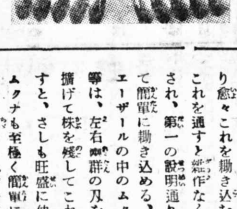
米棉、今霜んに摘穫り最中であるが、段々豫想數量を超過して、その收量が增大の傾向に在る、然し一の單客樣は本には買つて下さいと申入れられる義理合では無く、國内消費が激增したから大して心配はしてゐない筈と減らず口を叩いてゐる、英國又生死の場を低迷し、度々綿業中心地ランカッシャーへ爆彈の雨が降つては仕事も碌に手がつかない仕儀で殆んどこころの騷ぎでは無い、然し思慮なもので、カナダが綿布として英國へ供給するため相當米棉に手を着け、極東ロシアも又大なる量？を購つてゐるそうである、ロシア側の申分は中部アジヤ地方の棉作地が今年は大不作だから今では極東地方は米棉で凌ぎをつけると言つてゐる中だが、西にドイツを控へてゐる同國のこと、何をやつてゐるやら識れたものでない、それを承知の上で賣る米國の魯味も相當である

丸及グラーデ

農家に是非必要 値段が高いのが一難

アラードと鐵製グラーデとは棉作農作農家には今では無くてはならない農具として隨分良く行き渡つてゐる、その効力は今更說明するだけ野暮であらう、右の他に少々値段は嵩むが農家一般に普及させたい農具の一つグラーデ・デ・デイスがある（挿圖參照）丸及グラーデの魯味であつて、廣大な面積を耕作する伯國農家には頗に重寶この上ないものである、用途は次の通り

一、排起の準備作業、木の切株無い畑、例へばミーリョ棉、叢等を伐つた後地にこれを用ひる、伯國特有の野火は一切用ひず、フォイセも使はず、草が茂つた伐後の畑上を、デスコを以て縱橫に轉がしまわす、ブーロ



二、プラード後の操作、右の準備作業後再度デスコを通すと幾ブーラーデの跡が有機物を攪み出すこと無く完全に塊が碎け、仕事も至極早い、これは大分力が必要で役千二頭又はブーロ三頭仕事、行程は圃の廣のグラーデ・デンテならアルケーリ二日程である

三、肥養の切斷、肥し豆を作り愈々これを攪き込まれ以前これを通すと綿作なく切斷され、第一の目的通り至つて能率に攪き込める、カフエーザールの中のムクナ豆等は、左右群の及び擴げて株を蔽してこれを通すと、さしも旺盛に伸びるムクナも至極く能率に枝先が切り縮められ、一方草けづりにも助る

土地の好みも先づない、セラード掛つた土地にでも充分育つから面白い、豆科植物特有の强味である（挿圖たまんこの木と農業）

世紀の英雄

（挿繪小說）

番伸二

夏目

（三十九）

レビュ皇軍行進（二十）

さうした形容が本當なものであるか、ないか、は別として、大和智津子を嫌ったとへるなれば、大岡一郎を嫌ったとも言へやう

寄せた身體で、じつと相手をうかゞふ、そんな二人の今であつた

二人はちかん〜と互の眼を見合つて、相手の一擧手一投足をも見逃すまいとしてゐるやうでもあつた

「僕はあんたが欲しい。あんただつて、僕が必要に相違ない」

大岡はおし潰したやうな聲で言つた

「あら、大岡さんて案外な自惚れやさんね」

「自惚れかも知れない。でも僕は本心を言つてゐる」

「放して頂戴！」

さう言つて、前へ屈むかと見せたが、すると身體を大岡のわきからのがれて、脚踏つたやうに、くすり、と笑つた

薄暗いこゝでも、彼女の美しい顏並びは眞珠のやうに輝いた。大岡は目前が、眞暗になつた。愛を求めてさしのべた手は、見事、空をつかまされたのである

「畜生ッ」

大岡は、狂憤にかられたやうに慰はず、そんな亂暴な言葉を相手に吠きつけて、飛びかゝつて行つた

そして、びしッと、いきなり智津子の頬を殴つたのである。大和智津子を殴る

牧や劇團の人間にとつては女神であり、ファンにとつても神々しいまでの存在である大和智津子に、大岡一郎は平手打ちをくれたのだ

おそらく大和智津子の顏に平手打ちをくれたのは、にしても相手の男から殴られたといふ經驗は皆無であつたに相違ない

また、大岡は彼女に打擲をくれた。智津子は、

「あゝ……」

と、病的なあわれつぽい聲をあげると、片手で頬をおほつた

「な、なにをなさるのです」

大岡は無言でまだ手をあげたが、今度は智津子の手を掴むと、ぐつと引寄せるのであつた。そこには無邪氣な孔雀のやうな存在の大和智津子はなく、奴隸のやうに卑々しい二十二才の女性があるばかりであつた

——。それからどれ程經過した頃であらうか

舞城京平が、一と仕事、終つてこのギャラリーへさしかゝつたのである。京平は仕事が終ると、すぐ智津子の姿を頭に浮べた

京平は、眼をつぶると、智津子の笑つた顏、舞台の姿、または理性のかゝつた肩を想ひ出すが、離れてゐると、それらがばら〜になつて統一のとれた大和智津子の表情にはならない

それがたまらなく寂しかつた。始終大和智津子を眺めてゐる、表情に變化をつけておきたかつたのである

で、京平は彼女の姿を探すともなく、このギャラリーへ來て、二人を發見してしまつたのだ

ソファーにもたれた二人がぢつと動かず、窓外から漏れる月光のもとに照し出されてゐるのをみた時、京平はまつたく聲も立てられなかつた。

「あゝ」

樣を呑んだやうな表情で、そんな聲をあげる。ふと振り向いた男は、大岡一郎ではないか。京平にとつては二重の驚きと悲しみであつた。その時であつた。何處かで

「……さん、動員令ですよ」

雨期に近づきました

野菜、棉等に殺虫劑使用の時には必ず此の附着劑のカゼイン石灰を混ぜる必要があります

キロ 二、五〇〇
二十五キロ入袋 六〇錢
使用不明の方には問合せ下さい

時報商事部
時報支社
地方取次所
Lins - R. Com Salgado, 144
Marilia - R. Paes Leme, 304
P. Prudente - R. Rui Barbosa, 70

夏が來た
雨が降る、蚊が出る

◆子供用蚊帳
（一米六〇センチ）
（高サ六〇センチ）
一枚 十七錢

●通學用子供の雨カッパ
丈一米内外（注文により）
一枚 四十五錢
布地は丈夫のプリン
カキ油塗

◆薄荷の苗
一本 一錢

◆薄荷パイプ 一個七、〇〇〇
煙草を止めたい方は一時此のパイプを使用すれば不思議に有効、呼吸器病に罹り易い方に有効

藥草日本薄荷の偉効
當部販賣のものは母國北海道產、米澤系統ナ最も主成分に富むものであります
◆薄荷茶……一包 百瓦入 四、〇〇〇
胃腸病、呼吸器病、殊に喘息、咳嗽の方に特効、清凉劑として亦鎭痛劑として古來より用ひられて居ります